

第5回事務局会議 議事概要

日時: 平成25年6月27日(木) 9:30~11:30

場所: 東京電力 本店 本館11階1101・1102会議室/安定化センター1階会議室

出席者:

【事務局】

中西審議官、舟木室長(資工庁)、田中審議官(文科省)、上塚理事(JAEA)、
岡村常務(東芝)、丸技監(日立)、相澤副社長(東電) 他

【専門委員】

田中教授(東大)、浅間教授(東大)、井上顧問(電中研)、横山常務理事(電中研)、
金山理事代理(産総研)

【規制当局】

山口管理官補佐(規制庁)

議事:

1. プラントの状況について

- ・ 1~3号機の原子炉圧力容器底部温度、格納容器気相部温度は、約20℃~約45℃(6/26 現在)で推移している。外気温上昇の影響を受け、温度パラメータは上昇傾向にあるが、格納容器内圧力や、格納容器からの放射性物質の放出量等のパラメータについては有意な変動がなく、総合的に冷温停止状態を維持していると判断している。(東電)
- ・ 1号機の窒素封入を、2、3号機と同様にRPVのみからの封入が可能か調査するため、6/18より、窒素封入量変更試験を実施中である。(東電)
- ・ 地下貯水槽からの移送状況を反映し、RO後濃縮塩水受タンクの貯蔵量、容量を更新した。(東電)

2. 中長期ロードマップ改訂(案)について

- ・ 「中長期ロードマップの改訂のための検討のたたき台」を用い、福島県および地元自治体、有識者の方々へ説明を行い、ご意見を頂いた。全てのご意見を本文中に反映できているわけではないが、これらのご意見についても、参考とさせて頂き、今後の取組を進めていく。(資工庁)

3. 個別の計画毎の検討・実施状況

- ・ 東京電力より、これまでの一ヶ月の動きと今後一ヶ月の予定について、「中長期ロードマップ進捗状況(概要版)」並びに以下の資料に基づき説明があった。
 - ① CST 原子炉注水系の運用開始について
 - ② 2号機TIP案内管健全性確認作業の実施について
 - ③ 多核種除去設備ホット試験の状況
 - ④ 地下水バイパスの状況
 - ⑤ 地下貯水槽からの漏えい事故に関する調査結果と今後の対策
 - ⑥ 2~4号機海水配管トレンチについて

- ⑦ タービン建屋東側の地下水調査結果について
- ⑧ 地下水調査結果の通報・公表遅れについて
- ⑨ 3号機原子炉建屋オペレーティングフロアの線量低減対策について
- ⑩ 4号機天井クレーン上架作業について
- ⑪ 2号機原子炉建屋1階上部空間の調査結果について
- ⑫ 伐採木保管槽の温度傾向

・ 主なやりとりは以下の通り

<多核種除去設備ホット試験の状況>

- Q. ラボ試験ではヨウ素 129 を除去できたとのことだが、実機とは異なることも多い。活性炭で除去できるとは理解できないが、きちんと化学的性質を理解した上で、活性炭系吸着材を追加したのか。(田中教授)
- A. 汚染水中の核種の存在形態としては、様々なものが想定されるが、今回はコロイド状であると推定して活性炭を追加した。(東電)
- Q. ホット試験において約 13,000m³ の汚染水を処理しているが、廃棄物の発生状況はどうなっているのか。(井上教授)
- A. 交換が必要な吸着材は発生していないものの、鉄共沈処理、炭酸沈殿処理において発生したスラリー状の廃棄物をHICに入れ、ボックスカルバート内に保管している。(東電)

<地下水バイパスの状況>

- C. 揚水井 No.12 のトリチウム分析結果が他の揚水井に比べ高い件について、十分に説明ができるようにしておいて頂きたい。(田中教授)
- A. No.12 のトリチウムが高い要因は、周辺状況の違い等があるので整理しておく。(東電)

<タービン建屋東側の地下水調査結果について>

- Q. 観測孔周辺の土壌は汚染しているのではないか。将来的に土壌をどうするか考えておくことが必要ではないか。(田中教授)
- A. まずは、モニタリングにより地下水の汚染の範囲を調査し、次のステップとして、汚染した土壌を取り除く等の対策の検討を行う。当面は、薬液注入により閉じ込める対策を進めていく。(東電)
- Q. 汚染水が港湾内へ拡大することを抑える設備は、現状としては、シルトフェンスのみである。コンクリート等で完全にとめるオプションはないのか。また、取水口の水を浄化した上で、空にすれば、漏えいが検知できるようになるのではないか。(井上顧問)
- A. 汚染拡大防止策として、最終的には海側遮水壁を来年の9月までに完成させる予定である。高濃度汚染水が確認された箇所には個別に対策を実施する。まず当面は薬液注入により陸側地盤を改良し、閉じ込める対策を進めていく。(東電)
- A. 汚染拡大防止策としては、港湾内の一部を浚渫し浚渫土砂を被覆することも検討している。港湾については、今後も工事のため船の出入りが必要であり、港湾の使用状況

も踏まえて検討する必要がある。(東電)

- Q. 1～4号機取水口北側のサンプリングポイントは、海側遮水壁設置工事のため、水が滞留しているから放射性物質濃度が高いと言えるのか。(舟木室長)
- A. 現状ではメカニズムを解明できていない。これまで、取水口から港湾へ繋がる地点と
いうことでモニタリングしてきたが、今後は、遮水壁の外側についても並行してモニタ
リングを実施していく。(東電)
- C. 全体像を考慮して、モニタリングしているということが分かるようにして頂きたい。(舟
木室長)

< 2号機原子炉建屋 1階上部空間の調査結果について >

- Q. 産総研・HONDA ロボットについては、NHKニュースウェブにも取り上げられ、一般の
方々にも受け入れられている。何を目的にこの調査を実施したのか、今後どのように
活かされるのか。全体の調査シナリオを明示し、その中で今回の調査がどの部分に
あたるのか分かるような形で示して頂きたい。(浅間教授)
- A. 燃料デブリ取り出しに向けた検討の結果、原子炉建屋上部にある格納容器貫通部の
補修工事が必要となる可能性が高いことが分かっている。実際に格納容器貫通部を
調査するに当たって、事前に作業環境等の情報を採取することが目的である。格納容
器貫通部調査という全体の流れの中で、今回の調査を実施することを分かりやすく説
明する。(東電)

< 伐採木保管槽の温度傾向について >

- Q. 急激に温度が上昇した場合どのように対応するのか。また、将来的にも覆土式保管
槽に保管を続けるのか。(田中教授)
- A. これまでの実績等から急な温度上昇はないと考えている。将来的な保管については、
焼却できるかどうかも含めて十分に検討していく。(東電)

4. 中長期ロードマップ改訂(案)を踏まえた平成25年度研究開発計画のとりまとめについて
- ・ 東京電力より、中長期ロードマップ改定(案)を踏まえた平成25年度研究開発計画に
ついて、資料に基づき説明があった。

5. その他

<全般>

- ・ 汚染水漏えい問題に関しては、以下の通りしっかりと対応していく。(相澤副社長)
 - ◇ 汚染水の出元はどこなのか、リスクを洗い出し、低減を進めていく。
 - ◇ 地下水の流れを把握していく。
 - ◇ 海側遮水壁の設置により、汚染の拡大を防止するとともに、凍土式の陸側遮水
壁についても十分に検討し、地下水の流入抑制に努める。また、溜まった水をど
うするのかについても、十分に分析した上で対策を検討していく。
 - ◇ トリチウム対策について、汚染水処理対策委員会のご指導を賜りながら検討し
ていく。

<中長期ロードマップ改訂について>

- ・ 本日(6/27)13時30分より廃炉対策推進会議を開催し、ロードマップ改訂(案)をご了解
いただく予定。(資工庁)

<第6回事務局会議の開催について>

- ・ 次回の第6回事務局会議は7/25(木)開催予定。(資工庁)

以 上